

## 抗がん剤の使用に関する基礎データについて

## 1. がん患者数

患者数	データ出所	定義
① 70.4万人	「全国がん罹患モニタリング集計 2007年罹患数・率報告」(注)によるがん罹患数(平成19年)	がん罹患数:対象とする人口集団から、一定の期間(年間)に、新たにかんと診断された数(罹患数)を推計したもの
② 151.8万人	「患者調査」による悪性新生物の総患者数(平成20年)	総患者数:調査日現在において、継続的な医療を受けている者(調査日に医療施設を受療していない者を含む。)の数を推計したもの (参考)65歳以上の悪性新生物の総患者数は97.9万人

(注)厚生労働省第3次対がん総合戦略研究事業「がん罹患・死亡動向の実態把握に関する研究」班(研究代表者:祖父江友孝 国立がん研究センターがん対策情報センターがん統計研究部長)において、21県の地域がん登録罹患データをもとに集計、公表したもの。

## 2. 抗がん剤の使用率

がん患者のうち、治療のため抗がん剤を使用している者の割合に関する統計は存在しないが、既存のデータから推計すると、以下のとおり。

試算値	データ出所	試算方法等
① 30.1%	「JMDCLレセプトデータベース」(平成17~21年:がん患者8,928人)に基づく推計	「JMDCLレセプトデータベース」から、がんの部位別の患者数及び抗がん剤処方者数を集計、部位別処方割合を算出。がん患者数について年齢補正の上、全体の処方割合を算出。 ※抗がん剤処方者数は、出来高診療のみのデータであり、包括診療(DPC)の場合が含まれていない。 ※健保組合データのため、年齢分布が就業者に偏っている。
② 18.0%	DPCデータに基づく推計(注)	DPC分類に基づく傷病名ががんである患者の数(1,241,778人)、腫瘍用薬が投与された患者の数(223,722人)を集計、処方割合を算出。 ※厚生労働科学研究班調査に基づく入院患者における推計

(注)厚生労働科学研究「診断群分類の精緻化とそれを用いた医療評価の方法論開発に関する研究班」(研究代表者:伏見清秀東京医科歯科大学教授)において収集されたDPCデータをもとに、国立がん研究センター がん対策情報センターにおいて集計。

・平成22年7月~23年3月の退院患者データ(975施設、患者367万人分)を使用。

## 3. 抗がん剤の使用者数

抗がん剤の使用者数に関する統計は存在しない。

## 4. 副作用の発現頻度

抗がん剤全体の副作用発現頻度に係る統計は存在しない。

(参考1)海外の論文によると、化学療法を受けた65歳以上のがん患者(500人に対する調査結果)のうち、grade3以上の副作用の発生率は53%

<内訳>grade3(重篤) 39%、grade4(生命の危険又は障害)12%、grade5(死亡)2%

(資料出所)Predicting chemotherapy toxicity in older adults with cancer: a prospective multicenter study (Arti Hurria, etc.)

Journal of Clinical Oncology vol.29 pp.3457-3465

(参考2)医薬品別の副作用発生頻度の例については、別紙を参照。

## 薬物療法での製造販売後調査における副作用の発現頻度等(注1)

医薬品名	対象疾患	集計対象数	全副作用		重篤又はGrade3以上の副作用(注2)		死亡(注3)		当該医薬品との関連が否定できない死亡(注3)	
			例	%	例	%	例	%	例	%
マイロターグ	急性骨髄性白血病	753	663	88.0	594(*)	78.9(*)	586	77.8	64	9.8(注4)
ベルケイド	多発性骨髄腫	666	491	73.7	114	17.1	76	11.4	20	3.0
アリムタ	悪性胸膜中皮腫	903	760	84.2	-	-	290	32.1	7	0.8
アバステン	大腸癌	2698	1589	58.9	381	14.1	321	11.9	33	1.2
タルセバ	肺癌	3488	2852	81.8	-	-	-	-	-	-
ゼヴァリン	非ホジキンリンパ腫	104	90	86.5	-	-	-	-	-	-
	マントル細胞リンパ腫	20	18	90.0	-	-	-	-	-	-
スーテント	腎癌	464	438	94.4	201	43.3	67	14.4	12	2.6
	消化管間質腫瘍	191	186	97.4	67	35.1	15	7.9	6	3.1
サレド	多発性骨髄腫	1035	634	61.3	102	9.9	-	-	-	-
スプリセル	慢性骨髄性白血病	537	423	78.8	249(*)	46.4(*)	-	-	-	-
	急性リンパ性白血病	298	248	83.2	169(*)	56.7(*)	-	-	-	-
タシグナ	慢性骨髄性白血病	214	163	76.2	-	-	-	-	-	-
タイケルブ	乳癌	230	155	67.4	28	12.2	-	-	-	-

注1: 2005年以降に承認された抗悪性腫瘍薬のうち、製造販売後の全例調査が実施されており、かつ、2011年8月11日時点で製造販売業者のホームページ上で結果が公表されている対象とした。「-」は、異なる基準での集計がなされている等の理由により、該当する集計結果をホームページ上では確認することができない場合である。

注2: (\*)印はGrade3以上の副作用を、無印は重篤な副作用を示す

注3: 調査期間内における死亡を示す

注4: 生死不明症例を除いているため母数を652へ変更している